

ペーパーレス社内会議システムの導入効果

企業におけるペーパーレス化が叫ばれる一方で、PC（パソコン）のコモディティ（日用品）化に歩調を合わせるように、紙の使用量は増えている。社内でのペーパーレス化を阻む原因の1つが、社内会議である。本稿では、PCを使って会議から紙の資料を一掃する、ペーパーレス社内会議システムの導入効果について述べる。

社内での紙のはん濫

企業でのペーパーレス化が叫ばれて久しい。しかし、実際には、役員から一般社員まで、机の上には紙の資料がうず高く積み上げられ、会議は資料であふれている。いまやPCは1人1台の時代であるが、かえって紙の使用量は増えているのが実状である。

社内でのペーパーレス化を阻む原因の1つに、社内会議がある。大きな会議ともなれば、数十枚にもおよぶ資料が、参加者の数だけ準備され、配布される。その際の紙の消費量たるや膨大なものである。

資料の作成に要する労力も莫大である。担当者はたくさんの資料を数時間もかけて汗だくになってコピーし、細心の注意を払って製本する。途中で資料の差し替えでもあれば、さらに作業負担は増加する。

このような社内会議での紙の消費量の削減とコピー枚数の削減、さらに準備に要する担当者の作業量の軽減などを狙いに考えられたのが、ペーパーレス社内会議システムである。

ペーパーレスを実現するための要件

ペーパーレス社内会議を実現するために、以下のような要件を考えた。

PCアレルギーの利用者でも容易に扱えるように、操作を簡単にする

資料作成者の負担を増やさないため、資料は従来の形態と同じにする。「ワード」や「エクセル」など、通常の資料をそのまま使用し、プレゼンテーション用に特別な資料を作らない

資料の閲覧を特定者に限定するなど、必要不可欠なセキュリティを確保する

ペーパーレス社内会議システムとは

ペーパーレス社内会議システムは、1台のサーバーPCと十数台の会議用PCから構成されている（図1参照）。このシステムの特長は、次のとおりである。

サーバーPCから説明資料が取り出せるため、説明者はどの席に座ってもよい
取り出した説明資料にメモをとることができる

全出席者が同じ画面を見ることができると
たとえば、朝一番から始まる社内会議があるとする。そのため、会議事務局は前日午後までに会議用資料を収集する。資料の大部分は電子メールで送られてくるが、一部に紙の資料もある。そのうち電子メールで送られて

きた電子ファイルは、そのままサーバーPCに転送し、紙の資料は一旦イメージスキャナーで読み込んでからサーバーPCに取り込む。

会議室には各出席者の席に1台ずつノートPCが置かれている。説明者は、サーバーPCから説明資料を自分のPCに取り出して、説明を進める。聞き手

も、同じ操作をしながら説明を聞く。会議中、PCを操作し、資料の前のページに戻ったり、メモを書き加えたりすることもできる。

パソコンの操作が苦手な人のために、説明者のパソコンの画面をそのまま、全員のパソコンにリアルタイムに転送する、プロジェクターと同様の機能も利用することができる。

ペーパーレス社内会議の効果

このペーパーレス社内会議システムの導入効果を、以下にまとめた。

これまで参加者1人当たり数十枚あった

資料のコピーがなくなった

準備担当者の作業が大幅に軽減した

また、資料を電子化できたことにより、次のようなメリットも生まれた。

議題の説明が開始される直前まで、資料

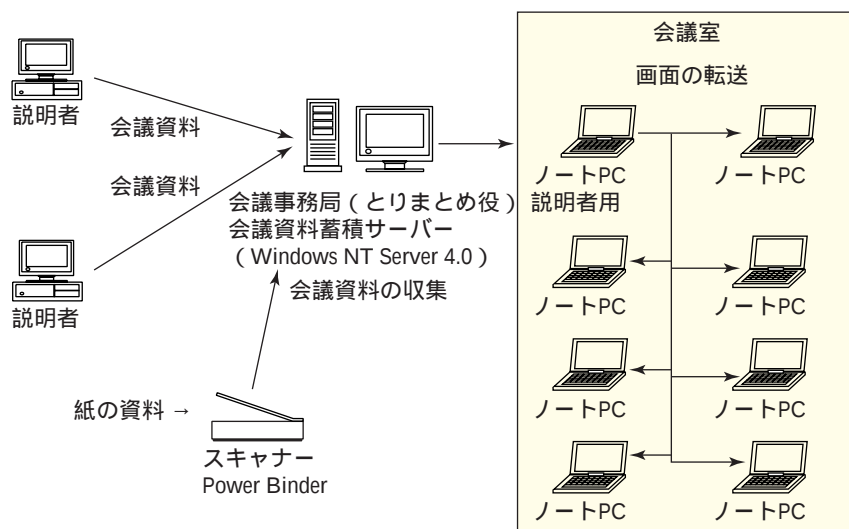


図1 パソコンによるペーパーレス社内会議のイメージ

の内容変更が可能になり、最新の情報を会議に持ち込めるようになった

会議で使用された資料を必要な部署に即座に電子ファイルとして届けることができるようになった

紙の拡散がもたらす機密漏洩の防止など、セキュリティ面が強化できた

情報共有と情報伝達の高速化に向けて

ペーパーレス社内会議システムを導入する真の目的は、「情報共有と情報伝達の高速化」にある。

情報伝達の早さが企業の生死を左右する時代には、このようなシステムをペーパーレス化ばかりでなく、情報共有の有力な手段として身近な会議に適用することが重要である。

(NRIデータサービス 山口真彰)